

子どもたちとの交流から学ぶ ～ようこそ、金沢星稜大学へ！～

団体名●芥川フィールド・金沢市立小坂小学校2年生

代表者名●芥川元喜（人間科学部子ども学科・准教授）

はじめに

金沢市立小坂小学校とは、担当ゼミナール2年生の「学校インターンシップ」、3年生「こどもフィールド演習」のフィールド校としてもここ数年、継続した連携活動をさせて頂いている。今回は、担当ゼミナール2年生で、小坂小学校2年生の子どもたちと交流を行った活動を紹介する。

活動内容

小坂小学校の2年生・生活科「町たんけん」の学習で、本学に興味・関心を持った子どもたちが本学に来学し、大学生が大学案内をした活動である。

1. 事前の活動

子どもたちにとって本学は小坂小学校の校区にあり、通学途中に校舎の前を通る子どもたちも多いということで、毎年、本学に興味・関心を持つ子どもたちがいてくれる。そうした子どもたちが事前の学習で、本学に関する質問（聞きたいこと・調べたいこと）を考え、担当の先生が送って下さった。その質問に学生が答えるため、内容について調べる活動から始まった。

小学生と交流活動を行う、筆者が担当する2年生フィールド基礎演習を受講する学生は7名いる。この7名の内、4名は同時に、小坂小学校の授業サポート学生（学校インターンシップ）としても活動している。

子どもたちからは、「金沢星稜大学はいつできたのですか」、「金沢星稜大学には何人の学生がいるのですか」のような本学に関わる質問や、「大学生は何時間目まで勉強するのですか」、「大学生はどんな生活をしているのですか」という、大学生の生活に関わる質問まで、多くの質問が届いた。学生は子どもたちからの一つひとつの質問に目を通し、その内容の答えを探し、どのように子どもたちに伝えるかを考えた。小学校教員を志望する学生が多いため、小学校2年生にどのように伝えたら分かりやすく伝わるのか、話し合った。その結果、分かりやすく伝わるように写真とパワーポイントを活用した。また、各質問に答える担当者を決め、その各担当者がパワーポイントを

作成した。完成してからゼミナールでリハーサルを繰り返し、スライドの言葉や、伝える言葉について全員で確認し、小学校2年生に分かりやすい伝え方について話し合い、考えた。子どもたちが来校する朝にもリハーサルを行い、本学に来校する2年生との交流を楽しみにしていることがよく伝わった。

2. 活動当日

10月18日（金）に本学で交流活動を行った。本学に興味・関心を持った子どもたち約35名と、引率の先生が来校した。はじめに、本学の正面玄関でお迎えをした。そこで、学生が挨拶をし、本日の交流の流れを説明した。次に、子どもたちを本館に案内した。子どもたちは大きな講義室に入って、大学の教室の広さや机や椅子が小学校とは異なることを実感し、早速、メモにとる子どもたちもいた。



(1) 子どもたちからの質問に答える交流の時間

講義室では、子どもたちから事前に出されていた質問について、大学生が答える形で進めた。質問者の子どもも決まっており、子どもたちは自分の質問をしっかりと自分の言葉で大学生に伝えてくれていた。また、子どもたちは大学生の答えをしっかりと記録していたので、子どもたちが記録を書く時間を確保しながら、子どもたちを焦らさず、「待つ」ということも意識できていた。また、答えによっては、子どもたちからは驚きの声が聞かれた。最後まで、大学生の伝える言葉を興味津々と聞いてくれていた。



(2)大学探検の様子

質問タイムの交流の後には、大学の校舎内を学生が案内した。子どもたちは大学生の生活に興味・関心を持っていたので、学生ホールにも案内した(写真参照：大学探検の様子)。他にも、学生たちが利用するピアノ練習室や研究棟、学生支援課や教務課の窓口がある事務局、稲置講堂等に案内した。稲置講堂では子どもたちにはステージに上がってもらい、記念撮影も出来た。最後に本学で一番大きいB館の講義室にも案内し、子どもたちは広い教室に足を踏み入れて、「広いなあ」と歓声を上げていた。

成果・結果の考察

実際の小学校の生活科の学習に関わり、交流し、学べたことは貴重な体験となった。この活動後の振り返りにおいても学生たちは、子どもたちへの声の掛け方など、実践的な学びとして多くことを学んでいた。この活動後には子どもたちから心のこもったお礼のお手紙を頂いた。学生は子どもたちからのお礼の手紙を研究室で一つひとつじっくり読んで、子どもたちの学習に少しでも役に立てたという喜びを共



有していた。今後もこうした地域の子どもたちのためにできる活動を継続して実施していきたい。